

え、個人の運動能力を伸長する機会として活用することの必要を感じ、運動能力を測定し、全園児・保育歴別（一年保育・二年保育年少、年長）年令別における傾向を知り、個人プロフィールによつ

て、発達段階に応じた計画をたて、集団指導の手がかりにし、いっそう健全な身体の子どもへと、努力している。

（滋賀大学付属幼稚園）

## 自由表現を生かした運動会

佐藤悦子

○発達段階の考慮と自由表現

従来運動会といえば、たんなるカケッコとたんなる遊戯が中心になる傾向があった。それらはいずれも画一的なものであり、特に遊戯などは、教師から既成のものを教え込まれ、一挙一動ま違えずにすれば「よくできた」と賞讃され、さもなければ、叱言の幾つもきかされながら無理矢理に、同じ動作を強制せられる傾向があった。

幼児にとって楽しいはずの運動会も、これでは興味が半減され、むしろ苦痛とさえ感じられる場合も少なくなかったであろう。

当園は、そのような過去のあり方を反省し、幼児に、無理なく、楽しみながら、誰でもが参加できる運動会にするためには、何が必要であるかを考えてみた。無理なく楽しくするための手段方法は、いくらでもあると思われるが、その

の根底をなす大きな条件は、発達段階の考慮と、自由性のある動き（表現）をさせることであると思ふ。

しかし発達段階を考慮するあまり、その動き全体が、単純且無味乾燥なものであったり、自由な動き（表現）のため、まとまりのつ

かないものであつては、その要をなさない。運動会であるからには、運動量があり、自ら楽しむと同時に、見るものを楽しませる要素を、ともにたなくてはならない。単純で自然な動きの中に、美しさの描かれるものを意図しながら、本年は次のような種目を試みてみた。

○本園の実態（小学校と合同）

春季の運動会は、集団生活に不馴れの幼児たちの集いであるため、とくに無理のない動きを考慮した。

○年少児拍子をとることを主とする。

○一年児前後の動きを主とする。

○年長児前後左右の動きを主とする。

秋季の運動会は、経験も豊富になり、表現力も的確旺盛になっているので、自由表現を主としたものを取扱ひ、併せて母親も参加出場させ、一しょになつて、より楽しくリズム遊びをさせた。

○曲のある一部分だけは、まとまりのある体型を要求する。

○母親の動きと表現はグループごとに創意工夫をしよう。

競技（親子競技）

組	種目	期待する能力
年少児	だるまおとし	技力
一年児	猫にかん音感	機敏性
年長児	大積木で重たくり	グループの協調
	家づくり	創意工夫

○結び

とくに発達段階を考慮し、子どもに適した、しかも自由性のあるものを選び、反復練習しなければできぬようなむづかしい、あるいは画一的な内容のものは排除し、子どもがじゅうぶんに活躍でき、興味のあるものにした。運動会に必要な道具は、誘導の段階として、できるだけ幼児の手で製作させることが望ましく、また工夫させたいものと思ふ。

（鳥根大学付属幼稚園）